

大丸松坂屋 標準規格

制 定 昭和54年 6月 5日
第11回改正 平成11年10月 1日
第12回改正 平成22年 3月 1日

衣服の外観品質 D S T 5001**1. 適用範囲**

この規格は、紳士服、婦人・子供服、コート類、セーター、ブラウス、ワイシャツ、スポーツシャツ、パジャマ、肌着、並びに学生・学童服に適用する。

2. 試験項目

- 2 - 1 表地及び裏地の外観品質
- 2 - 2 芯地の外観品質
- 2 - 3 附属材料の外観品質
- 2 - 4 縫糸の外観品質
- 2 - 5 縫製に係わる外観品質
- 2 - 6 寸 法
- 2 - 7 品質表示等

3. 試験方法並びに判定基準

- 3 - 1 表地及び裏地
織編きず、染むら、よごれ、破れなどの欠点がないこと。その他の品質については、品目に該当する本規格に合格するものであること。
- 3 - 2 芯地
表地に適合した風合（硬さ）であること。接着芯地の場合は、よく接着されており、浮きがないこと。また樹脂が表地を浸透してにじみ出し変色していないこと。その他の品質については、品目に該当する本規格に合格するものであること。
- 3 - 3 附属材料
主材料の品質、使用個所に適合し、着脱及び洗濯（ドライクリーニングを含む）に耐えるもの。
附属材料とは、ボタン、スナップ、ホック、ファスナー、尾錠、かしめ、アイレット、リボン、レース、ひも、ゴムひも、ブレード、グログランなどをいう。

3 - 4 縫 糸

衣服地及び衣服個所に適した色、強さ、太さのもの。

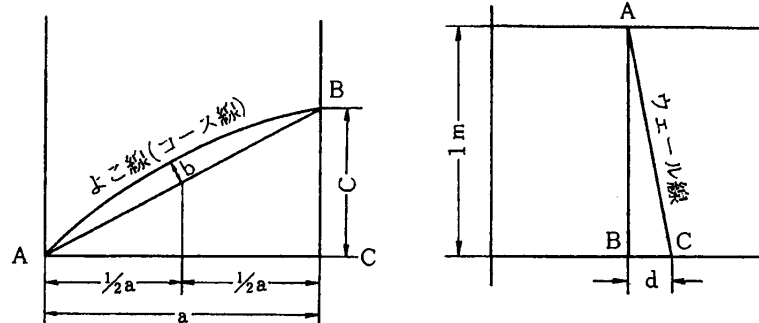
3 - 5 縫 製

(イ) 裁 断

- ・地の目（生地タテ糸、ヨコ糸またはウェール、コース）が縫製指示図で指定された方向に合っていること。

（注）裾回りが水平になっているかどうか、又プリーツが正常であるかどうかボディなどに着せて正しくチェックする。

- ・柄合わせが良好であること。
- ・布地の斜行及びコース曲がり、ウェール曲がりが目立たないこと。



$$\text{斜 行 度 (\%)} = \frac{c}{a} \times 100$$

$$\text{コース曲がり (\%)} = \frac{b}{a} \times 100$$

$$\text{ウェール曲がり (\%)} = \frac{d}{100} \times 100$$

5 %を良否判断の目安とする。

- ・目打ち印、合印（切り込み合印を含む）は表側に出ていないこと。
- ・別珍、コール天などの起毛生地は、毛波方向が一定であること。
ただし、デザイン上やむを得ないものは除く。
- ・ロット違いの生地が混入して、色違いが目立たないこと。

(ロ) 縫目外観

- ・縫目曲がり、縫針による糸ひけが目立たないこと。
- ・目とび、縫糸切断、縫いはずれがないこと。
- ・パッカリング（縫じわ）は4級（A A T C C 88 Bの限度見本使用）以上であること。
- ・返し針は完全にしてあること。
- ・糸端始末が丁寧に行われていること。
- ・ボタン、スナップ、ファスナー等適正な位置に良好についていること。

なお、ボタンつけにおいて

(1)手つけの場合、2本の糸で1つの穴に2回以上通し、根巻きは使用生地に適した回数（2～4回以上）とし、糸止めを完全にすること。

ただし、足つきボタン及び飾りボタンの根巻きについては例外とする。

(2)機械つけの場合、糸調子が良好で、糸の始末が完全にされ、そして糸の端末がボタン表面に出ないこと。

また、スナップつけにおいて

手つけの場合は、2本の糸で1つの穴に2回以上通し、糸止めを完全にすること。

糸は穴よりスナップの外側に向けて通す。

・ポケット、袖、衿等は適正な位置に縫着されていること。

（注）適正な位置とは

- ・ 左右対称であること（ポケットは両側ポケットの場合）。
- ・ 袖については、振り、いせ込み、袖山、袖丈等をチェックすること。
- ・ 衿は衿巾の不同、表衿は折り返し具合等をチェックすること。

・ 地糸切れ（特にニット）がないこと。

（注）地糸切れは、縫目を中心にして左右・上下に引張ってみてチェックする必要がある。

・ 袖、前身頃、スカートの脇など表地・芯地・裏地の間に原則として中とじが入っていること。

・ 伸びやすいニット生地の場合、肩線、ポケット口などに伸び止めテープなどで補強されていること。

・ 穴かがりは位置が正常であり、釦の大きさに合っていること。縫い始め、縫い終わり糸の始末が良好なこと。メス切れが良好なこと。からみ織など粗い組織や薄地の場合は芯地や裏打ち布で補強されていること。

・ 縫目には生地にあった伸縮性があり、縫目方向に引張ってみても容易に縫糸が切れないこと。

縫目強さ（法）の規格のある品目については、その判定基準に合格すること。

・ 縫目数（針数/3cm）は次のものを標準とする。

- | | |
|-----------|----------------------|
| ・ 本 縫 | 15 以上 |
| ・ 環 縫 | 13 以上 |
| ・ オーバーロック | 13 以上 |
| ・ 端かがり | 8 以上 |
| ・ す く い | 7 以上（特殊生地の裾まつりは4 以上） |

(ハ)縫代・折り代

- ・地糸がスリップして縫目が破れないよう、縫代が十分とられていること。
- ・お直しをする部位においては、寸法調節に必要な分量だけ縫代があること。
- ・通常の生地、通常の縫目の場合、次の縫代・折り代を標準とする。

(縫 代)

- ・本縫・環縫 0.8cm以上
(ただし、ドレスシャツの衿など特殊な縫目は除く。)
- ・インターロック 0.5cm以上
- ・オーバーロック 0.4cm以上
(ただし、デニムの紳士服、婦人服、子供服 の場合は、0.5cm以上とする。)
- ・背中心・脇・袖等 1.0cm以上
- ・尻縫上端(ズボン) 1.5cm以上

(折 り 代)

- ・袖口(裏つき) 4.0cm以上
- ・袖口(裏なし) 2.0cm以上
- ・袖口裏地 2.0cm以上
- ・裾(裏つき) 4.0cm以上
- ・裾(裏なし) 2.0cm以上

(ニ)プレスがけ

アイロン、プレスはスムーズにかけてあり、あたり、てかり(悪光り)が目立たないこと。

3 - 6 衣服寸法

縫製指示図の表示寸法に適合していること。この場合、表示寸法と実測寸法との許容差は、次表を目安とする。

衣 服 寸 法 許 容 差

(cm)

項目 品目	股下丈	丈	衿 囲	ゆき丈
ズ ボ ン	+ 2 . 0 - 1 . 0			
ス リ ッ プ		+ 2 . 0 - 3 . 0		
ペチコート		± 2 . 0		
ブ ラ ウ ス		± 2 . 0		
ワイシャツ			+ 1 . 0 - 0 . 5	± 1 . 0

寸法の測定方法は J I S L 0103-1990(既製衣料品のサイズ及び表示に関する通則)による。

3 - 7 品質表示等

品質表示(組成、及び取扱い等)、原産国表示、デメリット表示、サイズ表示は関連法規に従い、適正に表示されていること。